

各国政府・国際機関から原水爆禁止 2014 年世界大会に寄せられたメッセージ

2014 年 8 月 8 日現在

原水爆禁止世界大会実行委員会

国際連合

潘基文（パン・ギムン）事務総長

今年 60 回目を迎える原水爆禁止世界大会のすべての参加者のみなさんにご挨拶を送ります。特にこの大会の成功のため、長年、熱心に活動してこられた高草木博さんをはじめ、多くの皆さんに敬意を表します。

69 年前のこの日、この地で亡くなられた方々にたいし、深い哀悼の意を捧げます。また、この恐ろしい大量破壊兵器の非人道性を世界に知らせるため、たゆみなく努力してこられた被爆者のみなさんに、心からの感謝を表明します。全人類の未来のために多大な貢献をしてこられた不屈で高潔な皆さんとの出会いを私は決して忘れません。

核兵器の使用がどのような悲劇を人類にもたらすかを広く伝え、被爆者は市民社会の多様な団体を結集する広範な運動に貢献し、核兵器を世界からなくすために力をあわせてきました。

被爆者の尽力のおかげで、核兵器使用のもたらす壊滅的な人道的影響が理解され、市民社会と大多数の政府は強い危機感をあらわにしています。

核兵器をなくすことは、世界の人々すべての利益となるものであり、将来核兵器が使用されない唯一の保証です。この目標を実現すれば、人類は再び核の悪夢に悩まされることがなくなり、莫大な資源を社会、経済、環境、人権、安全に振り向けることができます。

この崇高な大義へのみなさんの貢献を称え、核兵器のない世界の実現をめざす私たちの共通のたたかいで、みなさんが多くの成功を収められることを期待します。

オーストリア

ハインツ・フィッシャー大統領

オーストリア共和国

69 年前、世界は未曾有の人災を目撃しました。1945 年 8 月 6 日と 9 日に爆発した核爆弾は、言語に絶する被害をもたらしました。よってこの重大な出来事を記憶にとどめることは私たちの責務であり、この点で原水爆禁止世界大会のかけがえのない貢献と重要な役割に賞賛を送ります。したがって今日、みなさんへのこの特別なメッセージをお受け取りください。

核の惨禍は全世界の人々にかかわる問題です。核のない世界に向けた取り組みはすべての国家が分かち合うべき課題です。核抑止という時代遅れの論理は、世界的な安全保障の議論においてはもはや存在すべきではありません。核の人道的側面こそが、再び私たちの思考の基礎を固め、

国際的な核軍縮努力を導くものでなければなりません。オーストリアは、この共通の目標に向かって、ますます増え続ける国々とともに取り組みます。

現在はこの点で、大きな成果を上げるにふさわしい状況にあると思います。オーストリアは、2014年12月8日と9日、ウィーンで、核の人的影響に関する第3回国際会議を主催します。このウィーン会議では、核兵器が人類、環境と食物生産、健康と経済に及ぼす影響が討論されます。会議では、核爆発が実際に起こる危険性を評価する予定です。

ウィーン会議は、核兵器のない世界を実現する足がかりとなるでしょう。オーストリアは、関係する全てのみなさんの積極的な参加と支援を期待しています。核軍縮と核兵器のない世界という共通の目的を実現することは緊急の優先課題です。

来年2015年は、広島と長崎への原爆投下からすでに70年となります。また、ニューヨークでNPT再検討会議が開催される年でもあります。核兵器国と全ての核保有国は、平和と持続可能な未来のために核兵器を廃絶するという自らの責任を、ただちに果たさねばなりません。

ブラジル

ルイス・アルベルト・フィゲイredo・マシャード外務大臣

ブラジル連邦共和国

原水爆禁止世界大会にご挨拶を送ることができて光栄です。広島と長崎を破壊した核兵器の犠牲となった数万の男女、子供たちを哀悼するとき、私たちは核爆発の引き起こした恐るべき非人道的な被害を思い起こします。

広島と長崎を思うとき頭に浮かぶのは、「もう二度と」という言葉です。人間がこのような残酷な兵器の犠牲になることを二度と許してはなりません。ブラジルは、世界から核兵器をなくすことが、その目標を達成する唯一の道であると信じています。

来年、核不拡散条約の締約国が、条約の第9回再検討会議に集まります。ブラジルは、NPT締約国が、条約そのものとこれまでの再検討会議のもとで、特に核軍縮・廃絶に関して行った約束を全面的に履行するよう要求します。

ブラジルは、NPTの発効から40年が過ぎたにもかかわらず、核兵器の廃絶に関して明らかな「順守違反」が続いていることを遺憾とするものです。冷戦終結から20年以上になりますが、今も17300発の核弾頭（うち4300発は配備済み）が、NPT締約国および非締約国の管理下に置かれています。これらの国々は核兵器の維持と近代化のために、毎年1千億ドル以上を支出しています。この金額の半分があれば、2015年ミレニアム開発目標を含め、社会経済的目標である貧困の削減が十分達成できるとされています。この問題は、国際社会がポスト2015年開発目標について討論を開始している現在、ますます重要になっています。

しかし、核軍縮・廃絶は、法的義務や経済的に合理的な措置であるという以上に、緊急に果たされるべき道義的な課題です。

核兵器は、無差別で過大な破壊を引き起こす力を持っています。広島と長崎で証明されたように、核兵器の使用は必然的に、人道的懸念を起こさせるような深刻で広範な被害をもたらします。核兵器は、例えば軍事目標と民間施設、あるいは戦闘員と非戦闘員を区別することができません。紛争と無関係の近隣諸国の国民も、核爆発により拡散する放射性降下物の影響で被害を受けることになるのです。被災者の大多数が民間人となる事は避けられません。

これらの理由から、核兵器の使用は国際人道法と相容れないのです。核爆発が起こった時に十分な人道的対応をすることは不可能です。これを完全に有効に防ぐ唯一の方法は、核兵器の完全で不可逆的な禁止です。この人道的な観点は、核軍縮の議論においてその重要性を顕著に増しており、ブラジルはこの流れを強く支持するものです。これに関連してわれわれは、既存の多国間討論の場において、核兵器保有国の参加も得て、核兵器を禁止するための法的拘束力ある条約について交渉を開始することを支持します。

核兵器は、存在する限り、人類にとって脅威であることを、われわれ全員が認識せねばなりません。一握りの国々が、自分たちには核兵器を保有する資格があると考えている限り、他の国や非国家主体を、核兵器の入手あるいは開発に駆りたてる危険があるのです。

今日、再び広島、長崎の犠牲者たちを哀悼するにあたって、ブラジル政府と国民は、核保有国に対し、核兵器のない世界という目標を達成するために、真の政治的決意を示し、努力を強化するよう呼びかけるものです。

キューバ

キューバ共産党中央委員会

アメリカ政府が、無防備の広島、長崎両市に対して、必要のない初の核実験を強行してから69年が経過しました。何十万人もが殺害され、多くの日本の人々に生涯にわたる傷を残しました。それは、爆撃によってのみならず、この帝国主義的で無責任、非道な行動の身体的・心理的影響によっても、もたらされました。

このジェノサイドから70年近くが経過し、世界は引き続き、原子力の適切な利用、汚染のリスク、核廃棄物、それが健康にもたらす問題などについて、議論しています。しかし、核実験は終わらず、核兵器はすでに地球を何度も破壊できるほどにまでなっています。既存の核兵器の破壊力は、広島に使われた爆弾の150万倍の威力に相当すると推定されています。

私たちは、原子力分野での技術的前進に反対ではありません。将来の世代は、唯一の解決策ではないとはいえ、おもにこの道によって、エネルギー問題を解決せざるをえないでしょう。キューバの歴史的指導者フィデル・カストロ同志は述べました。「原子力が、責任感にもとづいた真剣な土台の上で開発されれば、これらの創造、研究と科学技術から、人類はどれほど便益をうけるだろうか。しかし、商業的な基準のみで進められれば、支出も投資も材料も削減されがちとなり、したがって、安全も切り捨てられてしまうだろう」。

今日、世界を脅かしている危険は、核爆弾よりも古く、かつ予見可能なもの、すなわち帝国主義です。世界中をめぐる強力な艦隊、世界各地の軍事基地、ますます殺傷力を強め高度化されている通常兵器、一方的な自由貿易協定などは、他国を服従させ、支配し、世界の征服者、警察官として振舞うのに十分なものです。

一方で、貧困と開発の遅れで、毎日 10 万人以上の子どもたちが、本来なら救えた命を落しています。3 日に 1 度、広島と長崎で投下されたような爆弾が貧しい子どもたちの上に落とされているのと同じです。こうしたことは、帝国主義が語りたくないこと、ウソによってとりつくろおうとしていることです。彼らは、戦争と侵略を行い、封鎖と経済制裁を課し、武力行使の威嚇を行い、21 世紀においてさえ、原爆同様、数千の人間を殺し続けているのです。

世界の人民は、勝たなければならぬ重要なたたかいに当面しています。それはウソに対抗する真実の一つであり、思想の分野でのたたかいです。広島原爆慰霊碑は、気高く寛容な日本国民が世界に与えた、人類に対して犯された最大の犯罪を永遠に記憶にとどめる最良の例です。平和と正義を愛する人民のみなさん、ともにたたかきましょう。そして 1945 年 8 月に広島と長崎で米国によって行われたような政治テロ行為が二度と起きないようにしましょう。

兄弟的なあいさつをもって。

エジプト

サーメハ・シュクリ外務大臣

エジプト・アラブ共和国

エジプト・アラブ共和国アブドゥルファッターハ・エルシーシ大統領に代わり、皆さんからいただいた原水爆禁止 2014 年世界大会についてのお手紙に感謝申し上げます。この機会をお借りして、日本国民のみなさんに対するエジプトの支持をお送りするとともに、核兵器の完全廃絶こそが、核兵器の使用と威嚇を防ぐ唯一の方法であることを確認いたします。

この点で、核兵器国が、核不拡散条約第 6 条の下での義務を全面的に履行することが極めて重要です。しかし、核兵器廃絶のために大きな努力がなされているにもかかわらず、今なお核爆発の暗い影が人類の生存を脅かしているのは残念なことです。

エジプトは常に、核不拡散体制のために重要な手段を作り出すために積極的な役割を果たして来ました。これからも NPT の普遍化達成のために努力を続けます。私たちが目指すものの中心課題は、中東非核兵器地帯の設立であり、この目標実現のために日本が行う努力は最も重要であると考えています。

カザフスタン

ヌルスルタン・ナザルバエフ大統領

カザフスタン共和国

皆さん

広島・長崎で開かれる原水爆禁止世界大会の参加者の皆さんにメッセージを伝えることができることは光栄であり、喜びでもあります。

毎年開かれる世界大会の目的と理想は真に崇高であり、国際社会の全ての指導者の全面的な支持を受けるにふさわしいものです。私はこの会議が、核軍縮・廃絶に関する多国間交渉の進展のために尽力する様々な草の根の人々、政府当局者、国際機関が行う努力を強化するものになると確信しています。

2010年のNPT再検討会議、ワシントン、ソウル、ハーグで開催された核セキュリティサミット、核兵器の人的影響に関するオスロ及びナヤリットでの会議、第68回国連総会の際の核軍縮に関するハイレベル会合で生みだされた機運を維持しなければなりません。

最近の成果の中でも、5つの国連常任理事国（核兵器国）が中央アジア非核兵器地帯の消極的安全保証に関する議定書に署名したことを特筆しなければなりません。この歴史的出来事が、中東を含む世界の様々な地域におけるそれぞれの〔非核兵器〕地帯の設立にとって新たな弾みとなることを強く願います。

来年の核兵器に関する日程表にはいくつかの重要行事が含まれています。とりわけ、2015年NPT再検討会議が開かれるとともに、広島・長崎の悲劇から70周年、カザフスタン・セミパラチンスク核実験場での最初の核実験から66年でもあります。私はこれら全てを、過去から教訓を学ぶ機会としてだけでなく、新たな千年紀に全人類が核による破局という悪夢から解放され、全ての利用可能な資源を自らの持続可能な発展と繁栄に充てる機会と受け止めています。

現代世界は、安全と安定にかかわってかつてない困難に直面しています。地球規模の変化を考慮した時、政治的意志の構築の失敗と核軍縮分野における前進の欠如は、地球全体の未来を危険にさらし続けています。冷戦期の核態勢と核ドクトリンが私たちの生活に入り込む余地はなく、大量破壊兵器の全廃だけが、私たちの安全と生存を保証する時代が到来しました。私たちの世界は、この事実を無視するにはあまりにも脆弱すぎます。

皆さんがよくご存じのように、セミパラチンスク核実験場で40年間に500回以上行われた核爆発によって被害を受けたカザフスタンは、核兵器のない世界の実現の提唱者の中で欠かせない存在であり続けています。世界第4の核兵器備蓄を自発的に放棄し、セミパラチンスク核実験場が閉鎖された8月29日を国際核実験反対デーと宣言する決議の採択を国連総会に提案した国を代表して、尊敬すべき聴衆の皆さんに私は、原水爆禁止世界大会の目標と願いをカザフスタンが全面的に共有していることを強調したいと思います。

私たちは、国際社会の揺るぎない意志をいっそう強化する用意ができています。この点で、我が国が2012年に始めた「アトム」プロジェクトと、国連において核兵器のない世界宣言を採択するためのカザフスタン政府の取り組みは、世界中の核兵器反対運動の声をいっそう強化するためのものです。

決定的に重要な役割を果たしているこの場の聴衆の皆さんが、前述したカザフスタンのイニシアチブを支持し、私たちの崇高な目標を堅持する姿勢を示すよう強く求めます。

皆さん

最後に、広島・長崎、セミパラチンスク、ネバダ、ビキニ環礁、ムルロア環礁、その他世界中の悲劇の地において核兵器の犠牲となった数百万人の人々に追悼の意を表明したいと思います。彼らが払った高すぎる代償によって、人類は、自滅が避けられない間違った道を歩んでいることが証明されました。

人類が「悪魔の兵器」をうみだしその脆弱さを固定化するほど愚かであったのは極めて遺憾なことです。しかし、私たちの世代が、全ての大量破壊兵器を撤廃し、自らの文明の運命を転換するのに十分な賢明さを持っていることを願います。

核兵器に反対する私たちの共同のたたかいでの皆さんの成功を願っています。

ラオス

チュンマリー・サイヤソーン

ラオス人民民主共和国大統領

ラオス人民民主共和国政府を代表し、69年前の原爆投下によって人類史上もっとも悲劇的かつ壊滅的な被害を受けた広島と長崎で8月2日から9日まで開催される原水爆禁止2014年世界大会に、熱烈な挨拶をおくります。

今年の世界大会のテーマである核兵器のない平和で公正な世界を構築するための努力に献身している世界の国々の原水爆禁止運動をはじめとする代表のみなさんに、支持と連帯を表明します。

世界大会を毎年開催して平和を愛する人々を結集しようという考え方を、私は高く評価しています。世界大会は悲劇的な歴史についての世界の認識を高めようとする協力において、非常に有意義な役割を果たしています。また、今日も人類に影響を及ぼしている大量破壊兵器の脅威のない、より良い未来に向かって前進するために、過去から価値ある教訓を学んでいます。

ラオス人民民主共和国政府は、常に平和、独立、友情、国際社会との協力によって、永続的平和と安定の世界を構築する政策を堅持しています。

最後に、原水爆禁止2014年世界大会の大いなる成功を祈念します。

ニュージーランド

マレー・マカリー

ニュージーランド外務大臣（兼スポーツ・健康・余暇担当大臣）

親愛なる代表の皆さん、

ニュージーランド政府を代表し、ふたたび原水爆禁止世界大会に支援のメッセージを送ることができ嬉しく思います。

ニュージーランドは、核兵器廃絶にゆるぎなくとりこんでいます。私たちは、核兵器が存在する限り、滅亡をまねきかねない爆発の可能性が残ると考えています。

みなさんの大会や日本の被爆者の証言は、長年にわたり国際社会に核兵器がもたらす恐ろしい影響を重視させる助けとなってきました。このことは、近年、核兵器の人类的影響という重要問題を核軍縮の議論の中心に据えさせる重要な要素となっています。

人道的影響にふたたび焦点が当てられたことにより、核兵器のない世界を達成し維持しようとする国際的努力が活発化しています。世界大会がこのなかで果たした役割は称賛に値します。みなさんの大会は、狭義の安全保障上の利益などではなく、人類にとっての利益を押し出すことで、核兵器廃絶の議論と国際的課題を前進させる力となってきました。

世界大会に集うすべてのみなさんが、この最も重要な問題に献身的に取り組んでおられることに、称賛を送ります。

南アフリカ

ジェイコブ・ゲドレイーシュレキサ・ズマ

南アフリカ共和国大統領

来年は、人類史上最初で唯一の核攻撃から 70 年という節目の年を迎えます。広島と長崎の人々が、これまで開発された最も非人道的で無差別の兵器によるすさまじい破壊の犠牲者となったのです。この日は、世界の生存が今なお、核兵器の脅威にさらされているなか、不名誉なものとして残る日です。

幸い核兵器はそれ以来戦闘で使われることはありませんでした。しかし、その存在および誤使用や故意の使用の危険性は、引き続き人類にとって脅威となっています。とりわけ懸念されるのが、全ての核兵器の完全廃絶に向けて核不拡散条約（NPT）関連で行われた厳粛な決定や約束が覆されることです。戦略的に配備された核兵器の数の削減という歓迎すべき進展がある一方、私たちが懸念しているのは、軍事政策に盛り込まれる核兵器の役割や既存の核兵器の近代化、新型核兵器の開発です。これらはすべて、核兵器使用の可能性を高めます。

私たちが同様に懸念しているのは、核兵器を保有し続けることの正当化です。それは、核兵器の垂直・水平拡散を進めることになる可能性があります。いかなる状況下であれ、大量破壊兵器の使用、またはそれによる威嚇を正当化する根拠はありません。このような兵器の使用は国際人道法を含む国際法に違反します。

したがって国際社会が、核兵器のもたらす人道上的影響を改めて重視することは歓迎すべき動きです。これは、核爆発がもたらす破滅的な人道上的影響を教えてくれるとともに、核兵器のない世界の実現に向けた前進が緊急に必要であることにも気づかせてくれます。

核兵器の攻撃を受けた唯一の国として、日本、とりわけ広島・長崎の人々は、この脅威を取り除くたたくいで特別な役割をもっています。

核兵器を開発したものの、その後自発的に核兵器計画を破棄した唯一の国として、南アフリカもまた特別な地位を占めています。私たちは、対立ではなく協力を強調する政策、軍事介入ではなく紛争の平和的解決を強調する政策がどのように国の安全保障を強化するか知っています。さらに私たちは、核兵器の開発と維持によって、貧しく社会から取り残された人々の基本的な開発ニーズから本当に必要な公的資源が奪われることになることも知っています。

今日、広島と長崎の惨事を生き延びた人たち——核兵器の影響を直接体験した人々は、ごくわずかになりました。世界が二度とこの惨状を体験することがないように、また核兵器使用が人々や環境に及ぼす中長期的な影響を被らないよう奮闘するなかで、私たちは被爆者の知識に焦点を当てる必要があります。このことを念頭に置きながら、核兵器の脅威から解放された世界の実現に貢献する世界大会の成功を祈念いたします。

ありがとうございました。

ベトナム

ベトナム社会主義共和国

チュオン・タン・サン国家主席

原水爆禁止 2014 年世界大会への祝賀メッセージ

ベトナム社会主義共和国とその国民を代表し、原水爆禁止 2014 年世界大会に参加されたすべての代表団のみなさんに、心からのあいさつをお送りできることを光栄に思います。

広島と長崎の人びとが原爆の犠牲になってから 69 年が過ぎましたが、その悲劇的影響は今日までなお続いています。これは、核兵器をはじめ、その他の大量破壊兵器が、世界平和と人類の生存を脅かすものだという事を、私たち一人ひとりに教えています。

私は、この機会に、核兵器と化学兵器の犠牲者、そして世界中で起きている戦争と武力紛争によって犠牲になったすべての人びとに対し、連帯と友好、深い哀悼の意を表明するものです。

私はまた、平和運動勢力が、国家防衛と発展のためにたたかったベトナム人民と、枯葉剤の被害者を支えてくださっていることに対し、心からの感謝を申し上げます。

私たちは、世界平和と安全の維持が、すべての人に明るい生活をもたらす前提条件であることを知っています。この目的のために、私たちは、核兵器その他の大量破壊兵器の廃絶への努力とともに、軍事力の行使もしくは行使の威嚇、そして国家の主権とその正当な権利を脅かす行動を非難し、それとたたかわなければなりません。国家と政府に対し、国際法の尊重を求めることも極めて重要です。

私は、2014 年原水爆禁止世界大会が、平和で安定した世界のために世界の平和運動が手を携

える場であると確信しています。世界大会はまた、来年の NPT 再検討会議で、核軍縮、核不拡散、核の平和的利用という NPT が目指す 3 つの重要な目標への前進に向けた具体的な対策を議論し策定するための環境づくりの場でもあります。

核兵器のない世界、平和で平等な世界、そして被爆者も枯葉剤の被害者もない世界のために団結しましょう。

みなさんのご多幸と世界大会の成功をお祈りします。

赤十字国際委員会

赤十字国際委員会 (ICRC)

ペーター・マウラー総裁

赤十字国際委員会 (ICRC) はまず、被爆者援護の重要な活動と核兵器廃絶を目指すたゆみない努力を続ける日本原水協に賞賛を送ります。

核兵器は、その破壊力、言語を絶する人的被害、時空を超えて及ぶ制御不可能な影響、エスカレーションのリスク、環境、将来の世代、ひいては人類の生存そのものへの脅威という点で、他に類がありません。長崎市は、このことを知りすぎるほど知っています。身体、精神、心臓で、世界で 2 度目となった原爆の破滅的結果を体験したのです。

今日、69 年を経てなお、被爆者は依然として健康、遺伝子への長期的影響に苦しみ続けています。こうした影響は調査によって確認されており、広島、長崎の日本赤十字病院で、70 年近くにわたって目の当たりにされ、治療が続けられています。

この苦しみは 2010 年、190 か国の核不拡散条約締約国によって公式に認定されました。原爆使用が人体に影響を及ぼすことが不可避であることを認識した今、全締約国は、法的拘束力を持つ条約を通じて、核兵器が二度と使用されないことを確実にし、その使用を公式に禁止し、廃絶するために努力すべきです。

しかし、核兵器の使用を阻止するためには、市民社会が全ての国に、核使用の合法性についての様々な見解にかかわらずこうした兵器が二度と使用されないように圧力をかけるという努力も求められます。したがって、今日 ICRC は、長崎に第二の原爆が投下されて一月足らずの 1945 年 9 月 5 日に開始した、核兵器のいかなる使用も阻止しようとする取り組みを支援するよう、国際社会と善意の人々を動員する努力を継続していきます。

国際社会は、人々の苦しみを防ぐために、常にチャンスをうまく生かしてきたとはいえません。核兵器についていえば、あの悲劇から 69 年を経て、長崎は、核兵器を禁止・廃絶する法的拘束力のある条約を生み出すことを含めた予防措置こそ、唯一の道だということを私たちに示しています。